

課題5 行政との関係性

～市有財産を活用した拠点の確保に向けて～

住民主体の活動拠点づくり

【1 現状・課題】

- ある団地では、高齢者や子育て世帯への支援活動や地域住民の絆づくりを行うための拠点を必要としています。

【2 地域におけるこれまでの取組内容】

- 地区社協が、団地内にある解体予定の市の施設を活用したいと市に要望しました。
- 地域は自ら資金調達(募金、企業からの協賛金、市補助金等)して、施設をリフォーム(小修繕)し、一人暮らしの高齢者等が日中過ごせる交流・集いの場の提供や、放課後の子どもの居場所づくりなどを行っています。

▼活動拠点の様子



【3 行政等からの支援】

- 市は、施設を活用した取組が地域の課題解決につながると考え、この施設を無償で貸し出しました。
- 施設のリフォームに当たり、市の“まるごと元気”地域コミュニティ活性化補助金※1の交付や県共同募金会の地域テーマ募金※2による支援を行いました。
 - ※1【補助対象】町内会・自治会、子ども会、地区社協
【補助限度額】50万円(取組内容等によって限度額は異なります。)
 - ※2 地域の住民団体等が、区社協と協働し、地域の様々な課題を解決するプロジェクトに対し、1月～3月期に地域で集めた募金額に応じて共同募金会が配分金を加算する仕組み(上限300万円/年度、最大3年度)。

【4 これまでの成果】

- 地域住民が趣味や得意なことを活かして、そば打ち教室、パソコン教室、ヨガ教室、英会話教室、陶芸教室など多様な21の活動を主催しており、幅広い世代の参加が促され、地域住民の交流、住民間のつながりが強まっています。
- 開設した年度は約5,000人程度の利用でしたが、地域住民による活動が年々広がりを見せており、現在では年間約17,000人の団地住民が施設を利用するなど、地域住民が自由に活用できる拠点として地域に認知されています。

【5 今後の更なる活性化のための取組の方向性】

- 共助の取組として地域では、施設を活用して住民のニーズに沿った活動を展開していきます。
- 公助の取組として行政等では、更なる発展的な活動を支援するため、地域からの求めに応じて補助金等※3の活用などを提案します。
 - ※3 “まるごと元気”地域コミュニティ活性化補助金、区の魅力と活力向上推進事業補助金、市社協の地域団体連携支援基金に基づく助成金

他地区で展開する際のポイント

- ◎ 住民同士や住民と行政がしっかりと話し合いを重ね、具体的な施設の利用計画を立てたことで、住民自らの手でリフォーム費用等の資金調達を行うなど、自律的な運営につながっています。

課題5 行政との関係性

～市有財産を活用した拠点の確保に向けて～

JR旧駅舎を活用した交流拠点づくり

【1 現状・課題】

- ある地域では、地元住民がJR廃線後の旧駅舎や廃線敷を以前のような人の集まる場所として再生し、地域活性化の拠点にしたいと考えています。

【2 地域におけるこれまでの取組内容】

- 旧駅舎等の所有権を持つ市に対し、地域住民の活動や各種団体の情報発信の場として活用したいと要望しました。
- 連合自治会、体育協会、老人会、女性会、地元有志で旧駅舎等の運営委員会を立ち上げました。
- 区役所と管理に関する協定書を締結し、日常的に清掃や草刈り、点検などの維持管理を行いながら、駅舎の保存と活用に取り組んでいます。
- 駅舎カフェ、雑貨・地元野菜の販売、被爆体験講話、フリーマーケット、絵画展示や音楽コンサートなど多様な活動を行い、地域内外から多くの人を呼び込んでいます。
- 雨漏りしていた駅舎の屋根の改修工事を行うため、クラウドファンディング(インターネットを介して不特定多数の人々から少額ずつ資金を調達すること)を活用して資金調達するなど、新たなアイデアで活動しています。

▼廃線敷等を活用した活動拠点



【3 行政等からの支援】

- JRから無償譲渡を受けた旧駅舎の利活用を促進するため、市が広場などの整備を行いました。
- 市文化財団のひと・まち広島未来づくりファンドHm³(ふむふむ)助成金^{※1}を交付し、地域による旧駅舎の整備を支援しました。

※1【助成対象】まちづくり活動をより積極的に展開しようとしている団体
【助成限度額】50万円

【4 これまでの成果】

- 多い日には100名を超える地域住民や鉄道ファンが訪れ、地域活性化の拠点となっています。

【5 今後の更なる活性化のための取組の方向性】

- 共助の取組として運営委員会では、幅広い世代にとって居心地の良い場所となるよう、ドッグランの設置等を検討しています。
- 公助の取組として行政等では、活動の継続を支援するため、地域からの求めに応じて補助金^{※2}の活用などを提案します。

※2 “まるごと元気”地域コミュニティ活性化補助金、区の魅力と活力向上推進事業補助金

他地区で展開する際のポイント

- ◎ 住民同士や住民と行政がしっかりと話し合いを重ね、具体的な施設の利用計画を立てたことで、住民自らの手でリフォーム(小修繕)費用等の資金調達を行うなど、自律的な運営につながっています。

課題5 行政との関係性

～地域と行政の連携・協働に向けて～

地域と行政の連携・協働によるまちづくり

【1 現状・課題】

- ある地域では、原爆投下によりにぎわっていた街並みを全て失いました。
- 地域に関わる多様な主体と行政が連携し、にぎわいのあった街の歴史や当時の文化を活用したまちづくりに取り組んでいます。

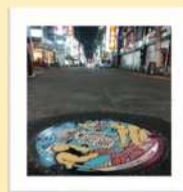
【2 地域におけるこれまでの取組内容】

- 原爆で失われた街道沿いのにぎわいを体験できるイベントを開催し、地域の認知度向上に取り組んでいます。また、地域で記念日を定めた上で、その日の前後にイベントを開催するなど、広島市の歴史や文化の効果的な情報発信に取り組んでいます。
- 子どもたちが街のルーツを探るきっかけとするため、被爆前の江戸時代からの歴史をクイズ形式にして紹介した独自のテキストを作成し、近隣の小学校に講師を派遣し、出前授業を行っています。
- 地域の企業とデザイナー・プロデューサーが協力し、特産品や伝統工芸品に統一したデザインのロゴをつけ、新たな観光資源となりうる「地域ブランド」を立ち上げています。地元の蔵元の銘酒を揃えた地酒のセットや、寺院や仏壇の製造・修繕で使用される伝統的な手法と現代のデザインを組み合わせさせた漆器などを発売し、地域のPRやにぎわいづくりの一翼を担っています。



【3 行政等からの支援】

- 市の区の魅力と活力向上推進事業補助金※を交付し、街の歴史と文化を生かしたにぎわいづくりイベントを支援しています。
※【補助対象】3人以上で構成される団体
【補助限度額】初年度:100万円、2年度:70万円、3年度:35万円
- 市では、地域の認知度向上に向け、地域独自のマンホールや道路標識サインを制作して地域へ設置しています。



【4 これまでの成果】

- テレビや新聞などのメディア等にも取り上げられ、多くの方々にとって、楽しみながら地域の歴史を知ってもらうきっかけとなっています。
- 現代風の楽しみ方で地域の魅力を発見してもらい、まちへの愛着が生まれています。

【5 今後の更なる活性化のための取組の方向性】

- 共助の取組として地域では、取組の充実に向けて、同じ旧街道沿いの他地域との連携を進め、まちづくりの魅力を高めていきたいと考えています。
- 公助の取組として行政等では、積極的かつ能動的に魅力の更なる向上を支援します。

☞ 他地区で展開する際のポイント

- ◎ ある地域の取組が効果的に行われている場合、広域的な視点を持って、共通の地域資源を持つ地域同士で連携して事業をすることにより、効果を拡大・波及させることができます。

課題5 行政との関係性

～地域と行政の連携・協働に向けて～

地域と行政の協働による課題解決

【1 現状・課題】

- ある区役所では、地域住民や地域団体、NPO法人、地元企業・商店街等と連携し、まちのにぎわいづくりや課題解決などに取り組むことにより、区ならではの魅力的なまちづくりを進めることを検討しています。
- 区内のある地域では、地域資源を生かしたまちづくりに取り組んでいますが、コロナ禍の影響で、これまでのような集客イベントの実施が困難になっています。

【2 地域におけるこれまでの取組内容】

- 地域では、関係団体等が連携して協議会を立ち上げ、街の歴史や文化を活用したイベントや啓発活動を行うなど、特色を生かしたまちづくりに取り組んでいました。

【3 行政等からの支援】

- 区役所では、若手職員によるプロジェクトチームを立ち上げ、コロナ禍でも実施可能な取組を検討しました。
- メンバーは区役所内から部署横断的に募り、住民と共に様々な視点から課題の解決策を検討できるようにしました。

【4 これまでの成果】

- 地域の歴史にまつわる謎解き問題の答えを探して歴史スポットを巡る謎解きウォーク、昔の街の様子や文化を学習しながら行う筋トレなど、地域の方々の協力の下、新たな企画が実現しました。
- 職員が地域、関係機関と連携し、様々な企画が実現した結果、テレビや新聞などのメディア等にも取り上げられ、まちのにぎわいづくりや課題解決の一助となっています。

▼プロジェクトチーム会議



▼筋トレ動画



【5 今後の更なる活性化のための取組の方向性】

- 共助の取組として地域では、行政等と連携を図りながら、地域の実情に応じたまちづくりに主体的に取り組めます。
- 公助の取組として行政等では、地域の課題を積極的かつ能動的に把握し、支援できる職員の育成に取り組めます。

☞ 他地区で展開する際のポイント

- ◎ 地域の実情や課題について、日頃から住民、企業、NPOや行政等が十分に情報共有し、課題の解決に向けて協働していくことが大切です。

課題5 行政との関係性

～地域と行政の連携・協働に向けて～

地域団体とテーマ型の活動団体をつなぐ

他都市事例

【1 現状・課題】

- ある市では、日常生活に困難を抱えるひとり親家庭や子どものいる生活困窮家庭に対し、様々な体験活動や学習支援を提供したり、食料品などを届ける方法を検討しています。

【2 地域におけるこれまでの取組内容】

- 地域団体や、福祉分野のNPOやグループ、社会貢献を目指す企業などが、子ども食堂やひとり親サロン、学習支援や食料品の提供などの支援活動を行っています。

【3 行政等からの支援】

- この市では、市役所と市社協が連携して、地域団体やNPO、グループ、企業による支援活動の情報集約と共有を進めています。
- また、市社協が中心となって、NPOなどの民間組織同士の連携やその中核を担う団体の育成に取り組んでいます。

【4 これまでの成果】

- コロナ禍による生活困窮家庭の増加などを踏まえ、市役所、市社協、民間組織が連携し、支援情報を週1回程度メール配信するなどの取組を実現しました。

▼生活支援情報のメール配信の案内チラシ

誰を対象にしたメールマガジン???
市内の日常生活に困難を抱えるひとり親家庭や、生活困窮家庭を対象にしています。

どんな風に届くの??
メールやLINEで情報が届きます。週に1回程度を目指して配信を行っています。

どんな情報が届くの??
2020年7月にスタート。2021年5月までに120件の情報をお届けしました。
対象の家庭に役立つ支援情報をお届けします。子どもたちの支援をするNPOからの情報、子どもの居場所からの支援情報、行政情報など様々です。

登録者の声はウラ面へ!

- 食材・日用品**
お弁当の配布やフードドライブの情報
- 仲間づくり**
ひとり親のサロンや子ども食堂情報
- 体験活動**
芸術・文化や自然・野外体験などの情報
- 制度の情報**
支援制度の情報
- 学習**
無料でできる学習支援の情報
- お祝いごと**
誕生日や季節行事を祝うプレゼント情報

この取組のポイント

- ◎ 市役所と市社協が連携し、支援情報を必要とする人と支援団体を効果的につなぐ仕組みや、NPOなどテーマ型で活動する団体、企業など民間組織による取組の創出を支援することが重要です。
- ◎ 地域団体とテーマ型の活動団体などが連携することで、解決策の検討や担い手の確保が進むとともに、支援を必要とする人のニーズに合う的確な活動が可能となることから、両団体の連携をコーディネートする仕組みについて検討する必要があります。